

佐治にもとの元気を取り戻したい

五しの里さじ地域協議会



事務局長
茂上 正道 さん
Masamichi Mogami

会長
前田 正人 さん
Masahito Maeta



子どもたちから大人気の魚のつかみ取り体験

農林家暮らし体験

美しい星空と豊かな自然に囲まれた鳥取市佐治町。耳を澄ませば穏やかな川のせせらぎと鳥や虫の音が聞こえるのどかなまちです。今、この佐治町が最も賑やかになる季節を迎えています。市内5校の小学生たちが佐治町を訪れ、民泊を含めた宿泊体験学習を行っているからです。

この小学生たちを受け入れるのが、「五しの里さじ地域協議会」に加盟する地元の家の人たち。今年も孫のよう

にかわいい小学生たちとの交流を楽しみながら、とても生き生きとしています。

まちがなくなる危機感

佐治町では、少子高齢化が早くから進むとともに過疎化が顕著になり、農地や家屋、林地が荒廃していきました。

会長の前田さんは、「このままでは佐治の自然や伝統、文化が全てなくなるという危機感があった」と語ります。この現状を変える、地域活性化のための資源は何か。それが「梨」、「星」、「石」、「和

紙」、「佐治谷話」の五つの「し」でした。そして、平成20年9月、この「五し」を最大限に活かした滞在型観光で、元気なふるさと佐治を復活させようと誕生したのが、五しの里さじ地域協議会です。

農林家への民泊体験はこの会の主要事業ですが、初めは大きな困難がありました。「こちそうは何にすればいいのか」、「どの部屋で寝てもらおうのか」と、人を受け入れることにみなが構えてしまったのです。前田さん自身もその一人。初年度の田舎暮らし体験

終わらないつながり

は15世帯でのスタートでした。民泊の受け入れを経験すると、「トラックで畑に行ったのが楽しかった」、「民家の近くの川遊びが楽しかった」など、子どもたちはふれあいの中から楽しみを見つけていきます。「自然体で、何でも一緒にやればいいのだ」。虫を見たり、食事や弁当を作ったりするうちに、初めに感じていた不安はいつの間にか消えてしまいました。

他の民家の人たちにとって

《8月の番組ガイド》

.....鳥取市行政番組.....

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【話題・特集】

- ▷第47回鳥取しゃんしゃん祭
- ▷湖山池将来ビジョンシンポジウム
- ▷貝から節祭り
- ▷あゆ祭
- ▷いんしゅう鹿野盆踊り



昨年の「鳥取しゃんしゃん祭」

静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金



イベント・募集・相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内します。

※7月から放送曜日・時間が変わりました

いなばびよんびよんネット
.....自主制作番組.....

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

ブドウや早生梨、夏野菜などの収穫や、特産の砂丘らっきょうの植え付けが最盛期を迎えた話題を紹介しします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

市内各地の旧暦の七夕やお盆の行事、子どもたちの夏休みの様子などを紹介しします。

生活情報番組『びよんびよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けしします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースや話題、行事、お知らせを手話や字幕で紹介しします。

※番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください。

「デジアナ変換」サービス開始

ケーブルテレビ局では地上デジタル放送をアナログ方式に変換して各家庭にお届けする「デジアナ」変換サービスを開始いたしました。ケーブルテレビに加入されていれば地上デジタル放送終了後もアナログテレビのままで地上放送が視聴いただけます。詳しくは、ご加入のケーブルテレビ局にお問い合わせ下さい。

情報をお寄せください!

いなばびよんびよんネット ☎ 0857-22-6111

※放送予定は予告なく変更することがあります。

番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。

<http://www.inabapyonpyon.net>



子どもたちを指導する茂上さん

「次はいつ?」という声
が自然に出るくらい、不安か
ら楽しみへと変化。「口コミ
で受け入れ先が
増えました」と
事務局長の茂上
さん。取り組みが
軌道に乗ったこと
を実感するとと
もに、「逆に子ど
もたちから元気
をもらっている」
と、感謝の気持
ちも忘れません。
また、子ども
たちから年賀状

が届いたり、小学校の学習発
表会などに招待されたりする
など、体験後も交流が続いて
います。その時だけで終わら
ないつながりが生まれること
が、この活動の素晴らしいと
ころ。子どもたちとのエピソ
ードを語る前田さんの顔がと
ても幸せそうでした。
初年度は年間120人程
だった民泊体験者が、今年は
倍以上になる300人強に増
加。受け入れ先も、24世帯ま
で増えました。茂上さんは、
より多くの人たちに対応でき
るよう、この取り組みのよさ

まちに元気が戻る日

を伝えながら、多くの人たち
に協力を呼びかけています。
魚のつかみ取りや枝打ち体
験など、佐治町には民泊体験
以外にも魅力満載の体験活動
が盛りだくさん。茂上さんは、
「その時のニーズに合うよう
に体験メニューを変えていき
たい」と、訪れた人にまた来
てもらえるような工夫を怠り
ません。
一方、梨シャーパーットや枺
みつなど、各集落に点在して
いた地域の土産物や野菜など

を集約して販売する「かみん
ぐ百彩」が7月16日にオープ
ン。佐治町の味を思い出とと
もに持って帰っていただくよ
う、観光地としての機能を充
実させました。この施設は、
地元住民の寄付を基礎に作ら
れたもので、「こんな取り組
みは、佐治が大好きでない
できない」と前田さん。まち
への愛着が全ての取り組みの
原動力だと確信しています。
前田さんらを中心に、地域
起こしの熱が高まる今、まち
全体に元気が戻る日はそう遠
くないと感じられました。